

第2回 家庭教育学級 “夢に向かって走る！” ご報告

去る7月30日、ランチルームにて元サッカー日本代表、
現ガイナレ鳥取 GM 岡野雅行氏講演を開催し、
92名（内訳：大人57名・子ども35名）の方に
ご参加いただきました。世田谷区教育委員会 社会教育指導員の
杉本一郎先生ご挨拶の後に、岡野氏より“夢に向かって走る！”
をテーマにお話を伺いました。



1. 岡野氏の講演より

◆岡野氏ってどんな人？

今でこそ、日本がワールドカップへ出場することは当たり前のように
なっているが、日本のワールドカップ初出場がかかった試合で
ゴールを決め導いたのが岡野氏だった。

◆泣きながらサッカーを始めた小学校時代

小学生時代は、一人っ子で友達の輪に入るのが苦手な子だった。母の勧めもあり友達を作るためにサッカー
チームに参加し、最終的にはキャプテンまで務め選抜メンバーになった。

両親からは、家に帰るのが嫌になるくらいサッカーのことで怒られていた。父はコーチ兼監督、母はレプリ
ーの資格まで取り応援してくれていた。その頃はプロのサッカーチームがなく、学校の先生からはサッカーを
やっても将来食っていけないと言われていたが、それでも両親はサッカーを続けるように応援してくれた。

◆サッカー部のない高校へ進学

ワールドカップに出場したいという夢はあったものの、サッカーよりも楽しいことが増えていった中学時代。
その後、知り合いのいる島根県の高校に進学。親元を離れ、寮生活をしていた。高校にはサッカー部がなかつ
たため、理事長にお願いし作った。20人くらいの先輩や同級生が集まり、岡野氏が監督兼選手としてサッカ
ー部がスタートした。練習試合もいくつもの高校に自ら頼みに行ったが、何度も断られた。それでもチームは
めげずに頑張り、島根県で3位になるまで強くなった。現在ではその高校はスポーツ学校として有名になって
いる。

◆大学時代 サッカー部の洗濯係だった！？

一般の高校だったので、大学進学はサッカー推薦ではなかった。大学のサッカー入部テストでは、60名中
2名に選ばれようやく入れたが、任されたのはボールにも触れない洗濯係だった。試合には出られず、荷物持
ちをずっとしていた。そんな中でも大事な試合で選手の控えとなり、出場していた選手が骨折したことで岡野
氏に出場の機会が与えられ、先輩たちブーイングの中、6得点を獲得した。それがきっかけで先輩たちを然ら
せ、レギュラー選手になった。

つらい状況でもサッカーを続けてこられたのは、両親に「どんな環境でも絶対あきらめるな」と教えられて
きたことが勇気となった。

「自分で蹴って、自分で取る」という走るプレースタイルになったのもこの頃。ずっと足が遅かったが、高
校時代には周囲におかしな目で見られてもつま先で常に歩き、瞬発力をつけた。そのおかげで大学時代には
100m 10秒8と陸上部の人に勝つほど足が速くなった。

◆野人の始まり～浦和レッズ入団～

走るプレースタイルがプロの目に留まり、6チームから
誘いが来た。大学中退し、浦和レッズ入団。

オーストラリアにキャンプへ行く時、服装について先輩
たちには布くて聞けず、友人に言われたままTシャツで
空港に行くこと、皆スーツ姿だった。それを見た人から
「お前、野人みたいだな」と言われたのが「野人」の由来。
それ以来、得点するたびにマスコミから「野人（岡野）救う」
と記事にされ、世に広まった。

◆初のワールドカップ出場を決めたゴールの真実

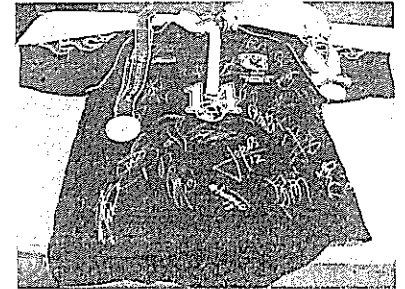
ワールドカップ出場枠があと1枠。日本で初開催が決まった頃、予選試合に勝たないと日本での開催自体が
なくなる重要な一戦だった。

実は、ゴールを決めた試合のみ出場しており、他はずっと控えだった。当時の岡田監督にどうして出してく
れないのかと部屋まで押しかけたが、「お前は秘密兵器だから」と言われただけだった。出場枠がかかった試
合では同点、延長となり「岡野」と監督に呼ばれようやく試合に出場。しかし、日本から来た2万人の応援団
の前で3回ゴールをはずし、4回目でようやくゴールを決めることができた。日の丸の重みを知った試合とな
った。

◆あきらめないで夢をつかむ

岡野氏は子どもたちに向けて、「90分のサッカー試合で自分
を表現できるのはほんの一瞬でしかない。自分が逃げ出さず、
チャレンジし続けていくことが今につながっている。」と伝えた。

最後に、いろんな環境でも逃げ出さずに頑張ってくれたの
は、両親のおかげだと思っている。どんな時も支えてくれた。
どの子も必ず良いものを皆持っている。子どもが壁にぶつ
かった時は、ぜひ見守ってほしいと大人たちへのメッセージを
伝えた。



2. 質疑応答（抜粋）

Q1) プロを目指していくのにどのようにモチベーションを保っていましたか。（大人から）

A1) 公園ではブランコ・電柱・石なんでも敵に見立てドリブルの練習をしていた。両親に言われていたのが、
「環境を言い訳にするな、できる努力はいくらでもある」だった。

Q2) 大事な試合で3回シュートを外した時どう思いましたか。（子どもから）

A2) 日本には帰れない。走って逃げようなど悪いことばかり考えていた。それでも最後は、あきらめないで
頑張ろうと思った。

Q3) 小学校2・3年生の頃、リフティングはどの位できましたか。（子どもから）

A3) 10回位できていたかも。リフティングはどこでも練習できる！

～アンケートより感想（抜粋）～

- ・きつい時、苦しい時、あきらめないで頑張り続けることの大切さが伝わった。
- ・夢を持ち続ける大切さを改めて感じた、子どもの夢を支えようと思った。
- ・岡野さんの話しぶりがステキでした。魅力のある方で、予想以上におもしろい人でした。
- ・子どもも参加させたかった、聞かせたかった。

～文化厚生委員より～

たくさんの方にご参加いただきありがとうございます。今回は講師のスケジュールの関係上、夏休み期間中の開催となり参加しにくい方もいらしたと思います。今後はより参加しやすい日程を検討してまいります。

最後に、岡野氏のサインと集合写真は校内に飾らせていただきますのでぜひご覧ください。